

桃園結義

張飛曰、「我莊後有一桃園、開花茂盛、明日

可宰白馬祭天、殺烏牛祭地、我兄弟三人結

生死之交、如何三人大喜、次日於桃園中列

下金紙銀錢、宰殺烏牛白馬、列於地上、三人

焚香再拜、而說誓曰、「念劉備・関羽・張飛、雖

異姓、結為兄弟、同心協力、救困扶危、上報國

家、下安黎庶、不求同年同月同日、生、只願同

年、同月、同日、死、皇天后土、以鑑此心、背義忘

恩、天人共戮、誓畢、共拜玄徳、為兄、関羽、次之、

張飛為弟

(三 国 志 演 義)

【書き下し文】

張飛曰はく、「我が莊の後ろに一桃園有り、開花すること茂盛たり。明日白馬を宰して天を祭り、烏牛を殺して地を祭り、我が兄弟三人生死の交はりを結ぶべくんば如何。」と。三人大いに喜ぶ。次日桃園中に於いて金紙銀錢を列下し、烏牛白馬を宰殺し、地上に列ぬ。三人香を焚き再拝して誓ひを説きて曰はく、「念ずるに劉備・関羽・張飛は、異姓と雖然も、結びて兄弟と為り、心を同じくし力を協はせ、困しみを救ひ危ふきを扶け、上は國家に報い、下は黎庶を安んず。同年同月同日に生まるるを求めず、只だ同年同月同日に死せんことを願ふのみ。皇天后土、以て此の心に鑑み、義に背き恩を忘れなば、天人共に戮せん。」と。誓ひ畢はり、共に玄德を拝して兄と為し、関羽之に次ぎ、張飛弟と為す。

【口語訳】

張飛が言うには、「私の家のうらに桃の畑があり、花が満開になっています。明日、白馬をさばいて天の神を祭り、黒牛を殺して地の神を祭り、我々は兄弟として三人で生死をともにする誓いを立ててはいかがでしょう。」ということである。(劉備・関羽・張飛の)三人はたいへん喜んだ。翌日、桃園に金銀の紙錢を並べ、黒牛と白馬を殺して地上に並べた。三人は香を焚いて丁寧に辞儀をし、誓いの言葉を述べた。「劉備・関羽・張飛は、姓が異なりはするものの、契りを結んで兄弟となり、心を同じくして力を合わせ、苦しむ者を救い、危機にある者を助け、上は國家に報い、下は民を安んじます。同年同月同日に生まれなかつたのはやむを得ないことですが、ただ同年同月同日に死ぬことを願います。天地の神々よ、私たちの心をご照覧くださり、義に背き、恩を忘れることがあれば、天罰をお与えください。」と。誓い終わると、(関羽と張飛は)玄德(劉備)に拝礼して兄と仰ぎ、関羽を次兄、張飛を弟とした。